

果^{てしなく}
広^{がる} 空の未来を創る



航空装備研究所は、
ひとりひとりの「成長」を通じて
「装備品」を創造し、
唯一無二の研究所となるため
4つの行動指針を掲げ、
航空装備を通じて日本の防衛に
貢献します。

揺るぎない技術力の保持を
.....
グローバルな視点を
.....
真摯で迅速な行動を
.....
多様な力の集結を
.....

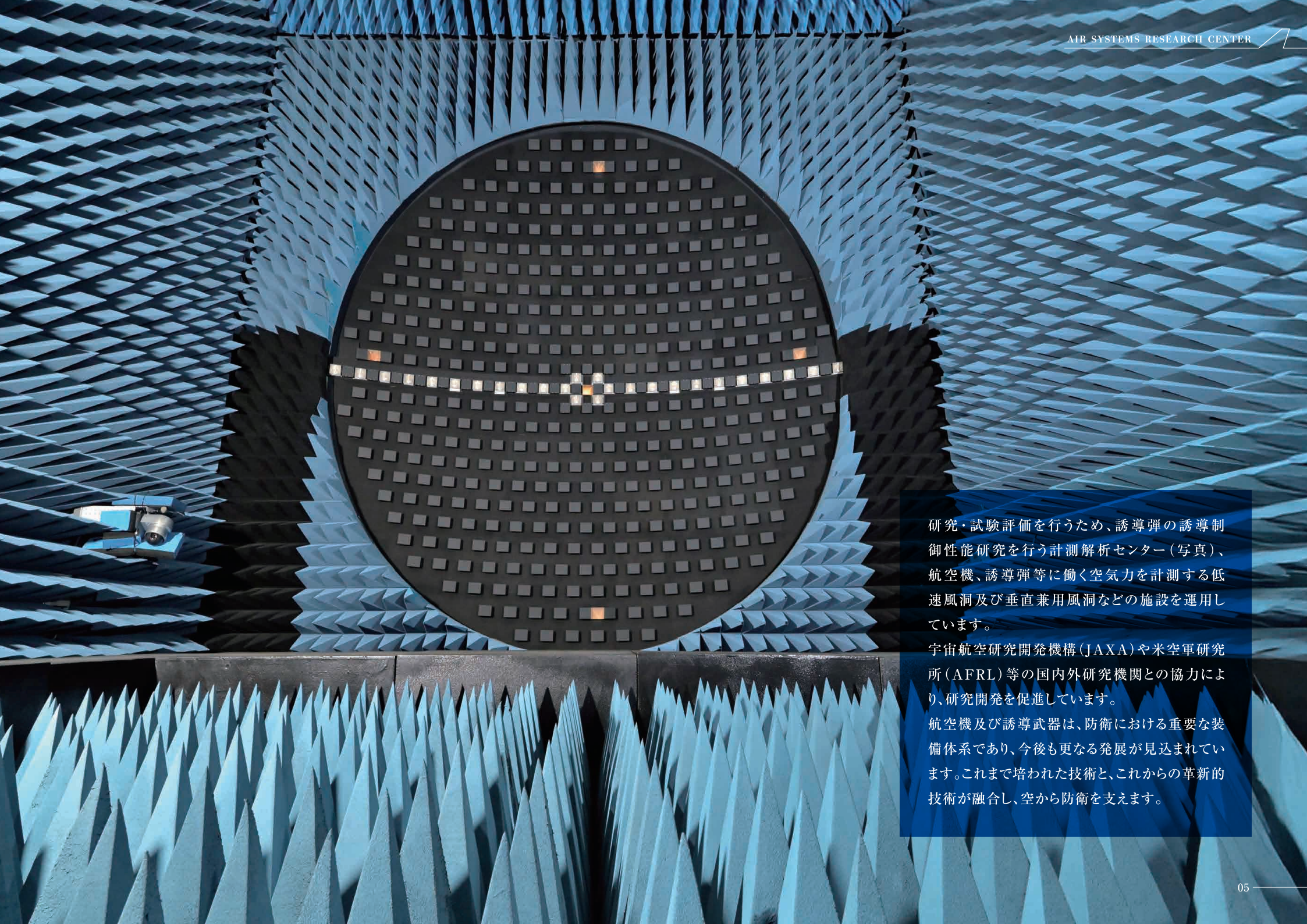


航空装備研究所の概要

航空装備研究所は、東京都立川市に1958年（昭和33年）の開設以来、航空機、エンジン及び誘導弾に関する研究・試験評価を行っています。航空機に関して、有人機及び無人機の機体システムのほか、近年ではAI技術を活用した研究を進めています。エンジン及び誘導弾に関して、スタンド・オフ防衛能力の強化のため、極超音速誘導弾の研究開発に取り組んでいます。

茨城県土浦市にある土浦支所は、ロケットモータの環境試験及び燃焼試験を、東京都新島村にある新島支所（写真）は、誘導武器の発射試験を実施しています。





研究・試験評価を行うため、誘導弾の誘導制御性能研究を行う計測解析センター(写真)、航空機、誘導弾等に働く空気力を計測する低速風洞及び垂直兼用風洞などの施設を運用しています。

宇宙航空研究開発機構(JAXA)や米空軍研究所(AFRL)等の国内外研究機関との協力により、研究開発を促進しています。

航空機及び誘導武器は、防衛における重要な装備体系であり、今後も更なる発展が見込まれています。これまで培われた技術と、これからの革新的技術が融合し、空から防衛を支えます。